

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域への参加を含んだ理念ではない。	○	理念の再検討を行う。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、フロアに掲示し、毎日、確認しながら支援を行っている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域への参加を含んだ理念ではない。	○	理念の再検討を行う。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域での掃除に参加したり、散歩時の挨拶など日常的に近隣住民などと交流を図るようにしている。		
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事でいきいきサロンや敬老会に参加している。また、夏祭り等地域の方が参加していただける行事も計画し誘っている。	○	もっと、地域の方が参加できる行事を計画する。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で地域高齢者の状況等をお聞きしているが、暮らしに役立てることはないか等は話し合っていない。	○	もっと、地域高齢者の意見などを聞き、当苑でできることがないか検討していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の結果を各ユニットにて検討し改善できるように取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議での皆様の意見などをできる限り取り入れ、サービスの向上につなげている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部からの相談や問題点等、日常的に市役所担当者と連携を図っている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在も地域権利擁護事業の利用者がいるため、事業担当者と連携を図り、必要な方に利用できるようにしている。成年後見人制度に関しては管理者等には外部の勉強会に参加してもらっている。	○	今後、苑内研修の中に組み込む。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス会議の時にスタッフに虐待の防止について話している。また、虐待防止法についても各ユニットに資料を置き勉強できるようにしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には不安や疑問点などを尋ね納得してもらえるようにしている。その他にも、事前に心配事や疑問点がないか尋ねて解決するようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者の意見を聞くように心がけ ているが、外部者へ表せる機会を設けてい ない。	○	外部に表せる機会を設ける。また、苑内に 意見箱の設置を検討する。
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	2ヶ月毎の苑便りと毎月手紙を請求書と同 封している。金銭管理は各利用者の金銭管 理台帳を半年毎に送付している。また、変 化があればそのつど家族に連絡を入れている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等で家族の意見を聞くように心がけ ているが、外部者へ表せる機会を設けてい ない。	○	外部に表せる機会を設ける。また、苑内に 意見箱の設置を検討する。
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	毎月のフロア長会議やカンファレンス会議 の時に意見や提案を聞くようにしている。 内容も検討しできる限り反映させている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	行事や利用者、家族の状況に応じて、ス タッフの勤務体制を調整する様にしてい る。(時間帯の変更・勤務者数の増員等)		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの移動などはできる限り最小限に している。移動や離職の時には、引継ぎや 事前に利用者と面識を持つ等をして、利用 者のダメージが最小限になるように配慮し ている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては人間性を重視しているため、性別や年齢で排除しないようにしている。従事するスタッフに関しても、本人の要望等をできるだけ尊重し、いきいきと勤務できるように配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	カンファレンスの時等に利用者の人権などについて、話をしている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な苑内勉強会や苑外での勉強会などに参加してもらっているが、段階に応じた研修は行っていない。	○	管理者、計画作成担当者、スタッフなどの段階に分けた研修を計画していく。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアスタッフ交流会などには参加しているが、相互訪問などの活動はできていない。	○	相互訪問等できるようなネットワーク作りをし、サービスの質の向上につなげていく。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会を開いたり、できる限りスタッフのストレス軽減には心がけているが、不十分である。(十分な休憩室がない等)	○	スタッフのストレス軽減の工夫などを検討していく。(休憩室の確保など)
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の実績などを把握し、そのスタッフが常に向上心を持って取り組めるような働きかけをしている。(興味のある勉強会への参加、目標の提示等)		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族等の意見を参考に、出来るだけ本人の思いを受け止める様に、面接や体験等を重ねる様にしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時より何度も家族と連絡を取り面会を重ね、不安に思っていることや疑問点などを聞くようにしている。その疑問点なども早期に解決するように取り組んでいる。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、計画作成担当者等と話し、必要としている支援を見極めると同時に、全体を通してサービスの対応を検討している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気から徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受けた後に、まずは担当職員が何度も訪問し顔なじみの関係を作り、その後、日帰りや宿泊の体験を行い、本人が納得してから利用してもらうようにしている。本人と少しでも馴染みの関係を作る工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃より、本人との会話の中で希望を聞きだし、掃除や洗濯、茶碗拭き等を一緒に行っている。	○	もっと、利用者の参加できる場等を増やしていく。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族へ状態の報告をするとともに、必要に応じて協力していただくようにしている。また、日頃より、ご家族の思い等を聞くようにしている。	○	家族も参加できるような行事を多く取り入れていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時等に本人やご家族などに、それぞれの思い等を聞き、入居以前の関係が上手くいくように代弁したりし関係作りを心がけている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の希望での面会の制限や限られたスタッフのため個人の外出がなかなかできない。	○	家族への理解を得たり、スタッフの調整をして、個別での外出の計画をしていく。
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合わせるように努めている	仲の良い利用者同士、自由に訪室しあったり、話をしたりできる雰囲気作りに努めている。居室で過ごす事が好きな人にも事あるごとに声掛けを心がけている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した後も、定期的に訪問したり状況を聞くなどし関係を切らないようにしている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の力や状態に応じて、一人ひとりに接して話しをしながら把握に努め、前向きに検討しながら対応している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に情報資料に目を通したり、家族や本人との会話の中より把握を努めている。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメント要約表を利用したりし、総合的に把握するように努めている。	○	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	出る限り本人や家族や担当医等の意見を聞いている。ご家族がいなかったり、本人が伝えられないこともあり、全てが参加できているわけではない。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	アセスメントに基づき、カンファレンスを開き6ヶ月毎に見直しをしている。入退院時や特別な変化がある時は、その都度、関係者との話し合いにより作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録においてはケア側からの記録になっているため、個別記録に本人の気持ち等の記入が少ない。	○	記録方法などの勉強会を行う。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の要望等、できる限り対応できるように柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要性を見極め、できる限りボランティアや消防署などと協力している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は他のサービスを利用している方もいないため話し合いなどは無い。今後は可能性も見られる。	○	申し入れがあった場合は前向きに支援していく。
44	—	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人やご家族の状況に応じて地域包括支援センターとの連携を図っている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各入居者のかかりつけ医との連携を大切にしている。また、24時間相談できる医療機関を確保している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	24時間相談できる協力医療機関より、専門医を紹介してもらっている。		
47	—	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	苑内の看護師や協力医療機関の看護師に相談しながら支援している。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中より定期的に医師や看護師との連携を図り情報交換や相談をし早期退院に向けて努めている。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的に入居時に話をしている。その後、本人の状況に応じてご家族・医師、その他関係スタッフと話し合いを開き情報の共有等を行っている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人やご家族との相談の中で、「できること・できないこと」を伝えると同時に「してほしいこと」等を聞き、担当医等と連携を図って対応している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には、関係機関との情報の共有をするとともに、馴染みのスタッフを作るなどの関係作り等をして対応している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない介助、本人の返答能力に応じた問いかけ、本人の思っている現実の受容に努める等の配慮した声かけを行っている。個人情報の取り扱いについても事前に本人とご家族に同意書をもった上で対応している。	○	日常的にスタッフ全員で声かけをし、言葉かけ等を注意していく。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望や自己決定を大切にしている。力量に応じて寄り添ったり、本人が希望を言い易いような環境作りや、ゆっくりしたペースで待つようにしている。	○	もっと、一人ひとりが希望を表現できるように働きかけを検討していく。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的に利用者のペースを大切にすることを話しているが、職員側の決まりや都合にペースを合わせることが多い。	○	日常的に一人ひとりのペースを大切にしたい対応を心がける。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人希望のおしゃれを大切にしている。また、行きつけの美容室や理容室にも送迎を行っている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現状では、利用者の状態により、一緒に準備はできないが、片付けは一緒にしている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医師に止められていないものであれば、本人の嗜好は大切にしている。(晩酌やおやつ等)		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できる限りトイレでの排泄に心がけ、排泄パターンや尿意のサインを見逃さないようにしトイレ誘導をしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合になっていることが多いが、利用者の状態により、予定を変更するなど、臨機応変に対応している。	○	利用者の希望にできるように、業務の見直しを行う。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの入眠前の習慣は大切に気持ちよく眠れるように支援している。(入眠前の談話やお酒等)		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	心がけてはいるが、全員が満足とまではいかない。ボランティアの演奏会や季節の催し物等の行事を行っている。	○	もっと、一人ひとりにあった楽しみごとや張り合いある役割を見つけ出す。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人には希望するだけの金額を、できない人には小銭を渡している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ本人の行きたい所へ送迎等をして支援しているが、意思疎通が困難な状態の人は出かけられる機会が少ないが、家族の支援を受けながら外出の機会を作っている。	○	希望の外出ができるような体制を検討する。外気浴や散歩を多く取り入れていく。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員による年数回の外出や個別の外出を行っているが、本人の希望を叶えてあげられないのが現実である。	○	希望の外出ができるような体制を検討する。実現できるように勤務なども変更していく。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には自由にしてもらっている。しかし、ご家族からの制限があり、できない利用者もいる。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	馴染みの人が気軽に訪問できるように、常に挨拶や声かけや個室にお茶の準備をするなど配慮するようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を理解し、しないケアを実施している。	○	身体拘束廃止委員会の設置を準備している。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前が急な坂道のため、危険が伴い、鍵をかけている。そのことに対し家族にも理解を得ている。	○	少しずつ施錠しない施設作りに取り組んでいく。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者を見守りやすい所にいたり、スタッフ間で声掛けをしあったりして所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、はさみ等の刃物類は目の届かない所に保管しているが、状態に応じて、目薬や趣味で使用される、はさみ等を自分で管理されている方もいる。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐために、「ひやり・はっと」を記入し、毎月のカンファレンスの時に検討している。また、定期的に火災訓練(年2回)や普通救命講習(年1回)を行っている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回の普通救命講習を行っている。	○	今後は年に1回普通救命講習と応急処置の講習も開催予定。また、希望者には上級救命講習を受講してもらう。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な火災訓練や普通救命講習を受け、毎朝申し送りの際、防火装置や消火器、避難経路の確認をしている。また、地域への協力を働きかけており、近隣の同グループ施設との連携も図っている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人の状態は最低月に1回手紙や電話にて報告をしている。リスクについても説明し、対応策の検討をしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	本人の訴え及びチェックシートや本人の顔色や日常生活上で異変を早期に発見し、その都度、すぐにかかりつけ医に相談し指示をもらうようにしている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の診断内容や薬の処方について、処方箋を元に連絡帳や生活日誌に記帳し、確認にしている。服薬は口に入れ飲み込むまでの確認を必ず行っている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消のために、おやつにヨーグルトを出したり、食物繊維の多いものを調理したり。運動をする等の工夫し、薬に頼らない排便に心がけている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ケア介助が必要な方に対しては時間の都合や拒否等により毎食後とは出来ていないが、夕食後は必ず実施している。	○	出来る限り毎食後、取り組んでいきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	午前、午後水分補給の時間を確保している。それ以外にも、入浴後は必ず補給したり、居室に用意する等気軽に飲めるようにしている。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は受けている。感染症対策マニュアルを準備したり回覧している。ノロウイルスの流行時には、魚介類、野菜の生物は避け、食材には全部、火を通すようにしている。	○	今後、感染症対策委員会を設置して、マニュアルに基づいた学習会の実施していく。
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の熱湯消毒をしたり、食中毒の時期にはできる限り生物は使用しない、仕入れも新鮮で安全なものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	坂があるため、入りにくいが玄関のプランターには季節折々の花を植え入り口内には入居者作の生け花を飾って和やかさをだしている。1階スタッフで美化委員を設け、苑まわりの美化に努めている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮しているが陽射しが入りにくく暗い。玄関、フロア、トイレ等季節の花を生けている。また、季節の飾りつけもしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファで一人ひとりが自由に過ごせるようにしている。また、廊下にもソファを置いたりして思い思いに過ごせる様に配慮している。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や生活用品を持ってきて頂いている。思い出深い写真や好きなものを自由に飾られている。		
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の際、換気している。温度調整、換気にはいつも配慮している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりは設置できているが、トイレの便座が高く洗面台には車椅子が入らず、又深くて使いにくい。	○	今後、トイレ、洗面台等について身体機能に対応できる様改修予定である。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の扉に一人ひとり好きな目印をつけたり、トイレや浴室などに札をつけている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	危険が伴い活動できない。スタッフ同伴で日光浴程度。安全な所のみ、スタッフ同伴で草取り、花の水やり等楽しみながら行っている。	○	裏の畑等上手く活用できるものがないか検討していく。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目</b>						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
			○	③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
				③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

季節に合った行事、ドライブ、散歩を行うことにより五感に働きかけ、思い出作りや毎日の生活を楽しく頂けるよう工夫している、一人ひとりの思いを大切に、最小限の決まり以外は束縛のない自由な生活を心がけている。そして、自分が認知症になっても安心して生活できるようなケアを心がけている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域への参加を含んだ理念ではない。	○	理念の再検討を行う。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、フロアに掲示し、毎日、朝礼時に声を出して言い、理念に基づいて支援するようにしている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域への参加を含んだ理念ではない。	○	理念の再検討を行う。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域での掃除に参加したり、散歩時の挨拶など日常的に近隣住民などと交流を図るようにしている。		
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事でいきいきサロンや敬老会に参加している。また、夏祭り等地域の方が参加していただける行事も計画し誘っている。	○	もっと、地域の方が参加できる行事を計画する。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で地域高齢者の状況等をお聞きしているが、暮らしに役立つことはないか等は話し合っていない。	○	もっと、地域高齢者の意見などを聞き、当苑でできることがないか検討していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の結果を各ユニットにて検討し改善できるように取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議での皆様の意見などをできる限り取り入れ、サービスの向上につなげている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部からの相談や問題点等、日常的に市役所担当者と連携を図っている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在も地域権利擁護事業の利用者がいるため、事業担当者と連携を図り、必要な方に利用できるようにしている。成年後見人制度に関しては管理者等には外部の勉強会に参加してもらっている。	○	今後、苑内研修の中に組み込む。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	カンファレンス会議の時にスタッフに虐待の防止について話している。また、虐待防止法についても各ユニットに資料を置き勉強できるようにしている。そして、いつもスタッフ間で話をして防止に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には不安や疑問点などを尋ね納得してもらえるようにしている。その他にも、事前に心配事や疑問点がないか尋ねて解決するようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者の意見を聞くように心がけているが、外部者へ表せる機会はない。	○	外部に表せる機会を設ける。また、苑内に意見箱の設置を検討する。
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月毎の苑便りと毎月手紙を請求書と同封している。金銭管理は各利用者の金銭管理台帳を半年毎に送付している。また、変化があればそのつど家族に連絡を入れている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等で家族の意見を聞くように心がけているが、外部者へ表せる機会はない。	○	外部に表せる機会を設ける。また、苑内に意見箱の設置を検討する。
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア長会議やカンファレンス会議の時に意見や提案を聞くようにしている。内容も検討しできる限り反映させている。	○	もっと、反映できるよう前向きに検討する。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や利用者、家族の状況に応じて、スタッフの勤務体制を調整する様になっている。(時間帯の変更・勤務者数の増員等)		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの移動などではできる限り最小限にしている。移動や離職の時には、引継ぎや事前に利用者と面識を持つ等して、利用者のダメージが最小限になるように配慮している。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては人間性を重視しているため、性別や年齢で排除しないようにしている。従事するスタッフに関しても、本人の要望等をできるだけ尊重し、いきいきと勤務できるように配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	カンファレンスの時等に利用者の人権などについて、話をしている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な苑内勉強会や苑外での勉強会などに参加してもらっているが、段階に応じた研修は行っていない。	○	管理者、計画作成担当者、スタッフのなど段階に分けた研修を計画していく。また、認知症介護実践者研修以外の外部研修費を少しでもいいので負担の検討をする。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアスタッフ交流会などには参加しているが、相互訪問などの活動はできていない。	○	相互訪問等できるようなネットワーク作りをし、サービスの質の向上につなげていく。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会を開いたり、できる限りスタッフのストレス軽減には心がけているが、不十分である。(十分な休憩室がない等)	○	スタッフのストレス軽減の工夫などを検討していく。(休憩室の確保など)
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の実績などを把握し、そのスタッフが常に向上心を持って取り組めるような働きかけをしている。(興味のある勉強会への参加、目標の提示等)		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族等の意見を参考に、出来るだけ本人の思いを受け止める様に、面接や体験等を重ねる様にしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時より何度も家族と連絡を取り面会を重ね、不安に思っていることや疑問点などを聞くようにしている。その疑問点なども早期に解決するように取り組んでいる。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、計画作成担当者等と話し、必要としている支援を見極めると同時に、全体を通してサービスの対応を検討している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受けた後に、まずは担当職員が何度も訪問し顔なじみの関係を作り、その後、日帰りや宿泊の体験を行い、本人が納得してから利用してもらうようにしている。本人と少しでも馴染みの関係を作る工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	談話の機会を多くして、利用者の方と共有、共通の事を増やし、共に喜んだり悲しんだりしている。	○	もっと、利用者の参加できる場面等を増やしていく。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方が快方へ向かわれる事を目標とし、面会時等ご家族と共に考える時間を持つように努力している。	○	家族も参加できるような行事を多く取り入れていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時等に本人やご家族などに、それぞれの思い等を聞き、入居以前の関係が上手くいくように代弁したりし関係作りに心がけている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の希望での面会の制限や限られたスタッフのため個人の外出がなかなかできない。	○	家族への理解を得たり、スタッフの調整をして、個別での外出の計画をしていく。
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士、自由に訪室しあったり、話をしたりできる雰囲気作りに努めている。また、誕生日会では一緒に祝ったりするなどして、関わり合いを深めるよう努力している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した後も、定期的に訪問したり状況を聞くなどし関係を切らないようにしている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方の生活を見つめ、快適な暮らしができるように努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報資料に目を通したり、家族や本人との会話の中より生活歴の把握を努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフ間の連絡を密にして、ADLを保つ努力、不穏をなくす努力をしている。アセスメント要約表を利用したりし、総合的に把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	出来る限り本人や家族や担当医等の意見を聞いている。ご家族がいなかったり、本人が伝えられないこともあり、全てが参加できているわけではない。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンス、申し送り時も常に状況や問題点を話し合い、ベストな介護に近づけるよう努力している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録においてはケア側からの記録になっているため、個別記録に本人の気持ち等の記入が少ない。	○	気づいた事や工夫を記録として残し、計画に反映させている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の要望等、できる限り対応できるように柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要性を見極め、できる限りボランティアや消防署などと協力している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は他のサービスを利用している方もいないため話し合いなどはない。今後は可能性も見られる。	○	申し入れがあった場合は前向きに支援していく。
44	—	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人やご家族の状況に応じて地域包括支援センターとの連携を図っている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各入居者のかかりつけ医との連携を大切にしている。また、24時間相談できる医療機関を確保している。	○	かかりつけ医との連携をうまく図りたい。
46	—	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	24時間相談できる協力医療機関より、専門医を紹介してもらっている。	○	認知症に関する勉強会を増やしたい。
47	—	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	苑内の看護師や協力医療機関の看護師に相談しながら支援している。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中より定期的に医師や看護師との連携を図り情報交換や相談をし早期退院に向けて努めている。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的に入居時に話をしている。その後、本人の状況に応じてご家族・医師、その他関係スタッフと話し合いを開き情報の共有等を行っている。	○	このユニットでは、今後看取りも予想されるので、方針、対応を話し合いたい。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人やご家族との相談の中で、「できること・できないこと」を伝えると同時に「してほしいこと」等を聞き、かかりつけ医等と連携を図って対応している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には、関係機関との情報の共有をするとともに、馴染みのスタッフを作るなどの関係作り等をして対応している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	名前の表示等、家族の希望があれば外部者の目に触れない様に心がけている。言葉かけも敬語を基本に馴染みの方言も使っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望が言いやすいような環境作りをし、本人が納得できるまで、あせらずゆっくりとしたペースで支援している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日を楽しく笑顔で暮らして頂くために、その人のペースに合わせて支援している。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が望むお店など希望される時は行けるように努めた。現在は本人の希望に応じ、スタッフがカットしている。本人が望む店がある場合は、行けるよう努める。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現状では、利用者の状態もあり、一緒に準備することができないが、本人の状態を見極めながら、片付けなどの支援を行い、できるだけ自立を維持できるよう支援している。		
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	総合的に考えて、体の負担にならないようなものを摂っていただいている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のリズムや病気の有無を考え合わせて声かけ、表情や素振り等を観察しながら、できるかぎりトイレでの排泄に心がけている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	食事、レクリエーション、体操等の時間帯が自ずと固定化しており、職員の都合になっていることが多い。	○	できるだけ、時間に幅をもたせられるようになればよい。
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の意向を尊重している。また、状況に応じて昼寝を勧めたりしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	退屈しないように体操をしたり、能力に応じたレクリエーションが出来るよう努めている。	○	みんなでの取り組みを好まれる傾向にはあるが、もっと、一人ひとりにあった楽しみごとや張り合いある役割を見つけ出す。
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ないので、事務所で管理している。しかし、買い物の楽しみを味わっていただくために行事の時に計画することもある。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望されることが少ない。また、外出などの変化を好まれない場合も多いので本人の希望がある時は、外出の機会を作れるよう努めている。	○	希望の外出ができるような体制を検討する。外気浴や散歩を多く取り入れていく。
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別で体調の良い日には外出を行い、年に数回、全員で外出、外食の行事を行っている。	○	希望の外出ができるような体制を検討する。実現できるように勤務なども変更していく。
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも支援している。手紙を書くことは出来ないので、月1回は代行している。	○	年賀状が書けるよう支援したい。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	毎月、手紙等でお誘いし、気軽に訪問していただけるよう心がけている。訪問の際はお茶の用意や気兼ねなく話ができるように、他のスペースも用意している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ間での話し合いで拘束をしない介護に取り組んでいる。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前が急な坂道のため、危険が伴い、鍵をかけている。そのことに対し家族にも理解を得ている。	○	少しずつ施錠しない施設作りに取り組んでいく。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が見守りやすい所にいたり、スタッフ間で声掛けをしあったりして所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものは管理しているが、趣味で使われる編み棒等個々で管理できる方もあり、状態に応じて取り組んでいる。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやり・はつとを記録し、随時、改善策の検討をしている。常時、一人ひとりの動きを把握し、見守りや付き添い介助を行っている。緊急時対応のマニュアルを設置し、定期的に火災訓練(年2回)をしている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回の普通救命講習を受けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な火災訓練や普通救命講習を受け、毎朝申し送りの際、防火装置や消火器、避難経路の確認をしている。また、地域への協力を働きかけており、近隣の同グループ施設との連携も図っている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人の状態は最低月に1回手紙や電話にて報告をしている。リスクについても説明し、対応策の検討をしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	本人の訴えや表情に留意し、バイタルや排泄のチェック等で早期発見に努めている。申し送りや生活の記録を検討し、留意する事柄をスタッフで共有するよう努めている。近くのかかりつけ医に、その都度、指示、往診を受けている。		
76	—	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の診断内容や薬の処方について、処方箋を元に連絡帳や生活日誌に記帳し、確認している。	○	薬の用法、副作用等については勉強が必要。
77	—	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然な排便のための、勉強会に参加し、職員の理解を深めている。排便のための体操や水分補給を欠かさないよう働きかけている。		
78	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝食、昼食は食後のお茶のみだが、夕食後は一人ひとりの状態に合わせ、必要な介助を行い、義歯は洗浄液を使用し清潔を保てるよう支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取は摂取量の記録をし、健康が損なわれないように努めている。水分補給は1度に多量摂取されない方が多いので、定時(1日6回)にかぎらず、テーブルについている時は少量ずつ摂取されるよう支援している。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は職員も全員受けている。感染症対策マニュアルを準備し回覧している。勉強会を行い職員の理解を深めており、特に流行時には個別に対策を立て実行している。	○	個別に感染症に対する勉強会を続けて、職員の理解を深めていきたい。
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の熱湯消毒をしたり、食中毒の時期にはできる限り生物は使用しない、仕入れも新鮮で安全なものを使用している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	坂の上であり、出入りがしにくいことが難点だが、玄関前には四季折々の花など植え、玄関には利用者の生け花作品が常時、飾られている。1階の職員が委員となり美化に努めている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間としては家庭的雰囲気欠ける。やすらぎ、居心地よく過ごせるような雰囲気には乏しい。花を飾ったり、壁に季節のものを飾ったりしている。	○	現在の設備の中で、居心地よい生活空間となるよう知恵を出していきたい。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを分け、座りたい所に座っていただくようにしている。また、廊下の奥まった所に、ソファを置いて、1人、2人でホッと落ち着けるスペースになるよう工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ってこられるものは、そのまま使用していただいている。家族からの手紙、写真等を飾られたり、静かな時間を過ごせるようにしている。		
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の際に限らず、常時換気には気をつけている。臭いについても、第一に掃除、換気に努め、場合に応じ消臭剤を使用している。温度、湿度の調整も行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置はできている。身長の高い方にはトイレ便座が高すぎる。また、洗面台の下に車椅子が入らない。	○	今後、トイレ、洗面台等について身体機能に対応できる様改修予定である。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の扉に一人ひとり好きな目印をつけたり。トイレや浴室などに札をつけている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	危険が伴い活動できない。スタッフ同伴で日光浴程度。	○	安心して過ごせる庭が欲しい。もしくは、フロアから直接出入りできるベランダが欲しい。



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念・ケア方針を基に、何事においても入居者の事を第一に考え、スタッフは行動している。また、御家族とも十分にコミュニケーションが取れている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域への参加を含んだ理念ではない。	○	理念の再検討を行う。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、フロアに掲示し、毎日、確認しながら支援を行っている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域への参加を含んだ理念ではない。	○	理念の再検討を行う。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域での掃除に参加したり、散歩時の挨拶など日常的に近隣住民などと交流を図るようにしている。		
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事でいきいきサロンや敬老会に参加している。また、夏祭り等地域の方が参加していただける行事も計画し誘っている。	○	もっと、地域の方が参加できる行事を計画する。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で地域高齢者の状況等をお聞きしているが、暮らしに役立てることはないか等は話し合っていない。	○	もっと、地域高齢者の意見などを聞き、当苑でできることがないか検討していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の結果を各ユニットにて検討し改善できるように取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議での皆様の意見などをできる限り取り入れ、サービスの向上につなげている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部からの相談や問題点等、日常的に市役所担当者と連携を図っている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在も地域権利擁護事業の利用者がいるため、事業担当者と連携を図り、必要な方に利用できるようにしている。成年後見人制度に関しては管理者等には外部の勉強会に参加してもらっている。	○	今後、苑内研修の中に組み込む。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス会議の時にスタッフに虐待の防止について話している。また、虐待防止法についても各ユニットに資料を置き勉強できるようにしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には不安や疑問点などを尋ね納得してもらえるようにしている。その他にも、事前に心配事や疑問点がないか尋ねて解決するようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者の意見を聞くように心がけ ているが、外部者へ表せる機会は設けてい ない。	○	外部に表せる機会を設ける。また、苑内に 意見箱の設置を検討する。
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	2ヶ月毎の苑便りと毎月手紙を請求書と同 封している。金銭管理は各利用者の金銭管 理台帳を半年毎に送付している。また、変 化があればそのつど家族に連絡を入れている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等で家族の意見を聞くように心がけ ているが、外部者へ表せる機会は設けてい ない。	○	外部に表せる機会を設ける。また、苑内に 意見箱の設置を検討する。
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	毎月のフロア長会議やカンファレンス会議 の時に意見や提案を聞くようにしている。 内容も検討しできる限り反映させている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	行事や利用者、家族の状況に応じて、ス タッフの勤務体制を調整する様にしてい る。(時間帯の変更・勤務者数の増員等)		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの移動などはできる限り最小限に している。移動や離職の時には、引継ぎや 事前に利用者と面識を持つ等をして、利用 者のダメージを最小限になるように配慮し ている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては人間性を重視しているため、性別や年齢で排除しないようにしている。従事するスタッフに関しても、本人の要望等をできるだけ尊重し、いきいきと勤務できるように配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	カンファレンスの時等に利用者の人権などについて、話をしている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な苑内勉強会や苑外での勉強会などに参加してもらっているが、段階に応じた研修は行っていない。	○	管理者、計画作成担当者、スタッフなどの段階に分けた研修を計画していく。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアスタッフ交流会などには参加しているが、相互訪問などの活動はできていない。	○	相互訪問等できるようなネットワーク作りをし、サービスの質の向上につなげていく。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会を開いたり、できる限りスタッフのストレス軽減には心がけているが、不十分である。(十分な休憩室がない等)	○	スタッフのストレス軽減の工夫などを検討していく。(休憩室の確保など)
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の実績などを把握し、そのスタッフが常に向上心を持って取り組めるような働きかけをしている。(興味のある勉強会への参加、目標の提示等)		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族等の意見を参考に、出来るだけ本人の思いを受け止める様に、面接や体験等を重ねる様にしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時より何度も家族と連絡を取り面会を重ね、不安に思っていることや疑問点などを聞くようにしている。その疑問点なども早期に解決するように取り組んでいる。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、計画作成担当者等と話し、必要としている支援を見極めると同時に、全体を通してサービスの対応を検討している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気から徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受けた後に、まずは担当職員が何度も訪問し顔なじみの関係を作り、その後、日帰りや宿泊の体験を行い、本人が納得してから利用してもらうようにしている。本人と少しでも馴染みの関係を作る工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃より、本人との会話の中で希望を聞きだし、掃除や洗濯、茶碗拭き等を一緒に行っている。	○	もっと、利用者の参加できる場等を増やしていく。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族へ状態の報告をするとともに、必要に応じて協力していただくようにしている。また、日頃より、ご家族の思い等を聞くようにしている。	○	家族も参加できるような行事を多く取り入れていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時等に本人やご家族などに、それぞれの思い等を聞き、入居以前の関係が上手くいくように代弁したりし関係作りを心がけている。家族の面会がない場合はこちらから面会に来ていただけるよう働きかける。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の希望での面会の制限や限られたスタッフのため個人の外出がなかなかできない。しかし、宗教的な会合などは、本人が希望される場合はスタッフが付き添い参加している。	○	家族への理解を得たり、スタッフの調整をして、個別での外出の計画をしていく。
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合わせるように努めている	仲の良い利用者同士、自由に訪室しあったり、話をしたりできる雰囲気作りに努めている。居室で過ごす事が多い人にも事あるごとに声掛けを心がけている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した後も、定期的に訪問したり現在の状況を電話又は、自宅訪問等し、関係を切らないようにしている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の力や状態に応じて、一人ひとりに接して話しをしながら把握に努め、前向きに検討しながら対応している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報資料に目を通したり、家族や本人との会話の中より把握を努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメント要約表を利用したり、ケース記録や連絡ノートを活用し、総合的に把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	出来る限り本人や家族や担当医等の意見を聞いている。ご家族がいなかったり、本人が伝えられないこともあり、全てが参加できているわけではない。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	アセスメントに基づき、カンファレンスを開き6ヶ月毎に見直しをしたり、本人や家族の意見を取り入れたプランを作成。入退院時や特別な変化がある時は、その都度、関係者との話し合いにより作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録においては申し送り、連絡ノートなどで情報を共有しているが、ケア側からの記録になっているため、個別記録に本人の気持ち等の記入が少ない。	○	記録方法などの勉強会を行う。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の要望等、できる限り対応できるように柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要性を見極め、できる限りボランティアや消防署などと協力している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は他のサービスを利用している方もいないため話し合いなどは無い。今後は可能性も見られる。	○	申し入れがあった場合は前向きに支援していく。
44	—	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人やご家族の状況に応じて地域包括支援センターとの連携を図っている。又、社会福祉協議会に依頼し、権利擁護制度を利用している。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各入居者のかかりつけ医と連携を大切にしている。また、24時間相談できる医療機関を確保している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	24時間相談できる協力医療機関より、専門医を紹介してもらっている。		
47	—	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	苑内の看護師や協力医療機関の看護師に相談しながら支援している。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中より定期的に医師や看護師との連携を図り情報交換や相談をし早期退院に向けて努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的に入居時に話をしている。その後、本人の状況に応じてご家族・医師、その他関係スタッフと話し合いを開き情報の共有等を行っている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人やご家族との相談の中で、「できること・できないこと」を伝えると同時に「してほしいこと」等を聞き、担当医等と連携を図ったり、家族の方にも看取りに参加、協力していただいている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には、関係機関との情報の共有をするとともに、馴染みのスタッフを作るなどの関係作り等をして対応している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない介助、本人の返答能力に応じた問いかけ、本人の思っている現実の受容に努める等の配慮した声かけを行っている。個人情報の取り扱いについても事前に本人とご家族に同意書をもった上で対応している。	○	日常的にスタッフ全員で声かけをし、言葉かけ等を注意していく。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望や自己決定を大切にしている。力量に応じて寄り添ったり、本人が希望を言い易いような環境作りや、ゆっくりしたペースで待つようにしている。	○	もっと、一人ひとりが希望を表現できるように働きかけを検討していく。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的に利用者のペースを大切にすることを話しているが、職員側の決まりや都合に合わせることが多い。	○	日常的に一人ひとりのペースを大切にした対応を心がける。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望のおしゃれを大切にしている。また、行きつけの美容室や理容室にも送迎を行っている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現状では、利用者の状態により、一緒に準備はできないが、下膳、片付けは一緒にしている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医師に止められていないものであれば、本人の嗜好は大切にしている。(晩酌やおやつ等)		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できる限りオムツの使用を減らし、トイレでの排泄に心がけ、排泄パターンや尿意のサインを見逃さないようにトイレ誘導をしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合になっていることが多いが、順番などはなるべく希望の通りになるよう支援している。	○	利用者の希望にできるように、業務の見直しを行う。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの入眠前に習慣は大切に気持ちよく眠れるように支援している。(入眠前の談話やお酒等)		



項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボランティアの演奏会や季節の催し物や行事を行っている。又、数名の方は役割分担で張り合いの日々を過ごされているが、全員が満足とまではいかない。	○	もっと、一人ひとりにあった楽しみごとや張り合いある役割を見つけ出す。
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人には、1万円以上はなるべく事務所で預かり、1万円未満は本人所持している。できない方は事務所で管理している。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ本人の行きたい所へ送迎等をして支援しているが、意思疎通が困難な状態の人は出かけられる機会が少ない。	○	希望の外出ができるような体制を検討する。外気浴や散歩を多く取り入れていく。
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月一回季節に応じた外出や本人の昔住んでいた家などに行ったりしている。なるべく本人の希望は叶えていきたいが、実現できない事も多い。	○	希望の外出ができるような体制を検討する。実現できるように勤務なども変更していく。
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には自由にしてもらっている。年賀状、暑中見舞いのハガキに一言本人に書いて頂き、家族へ現状の様子を知らせている。しかし、できない利用者もいる。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	馴染みの人が気軽に訪問できるように、常に挨拶や声かけや個室にお茶の準備をするなど配慮するようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を理解し、しないケアを実施している。	○	身体拘束廃止委員会の設置を準備している。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前が急な坂道のため、危険が伴い、鍵をかけている。そのことに対し家族にも理解を得ている。	○	少しずつ施錠しない施設作りに取り組んでいく。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者を見守りやすい所にいたり、スタッフ間で声掛けをしあったりして所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、はさみ等の刃物類は目の届かない所に保管しているが、状態に応じて、目薬や趣味で使用される、はさみ等を自分で管理されている方もいる		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐために、「ひやり・はっと」を記入し、毎月のカンファレンスの時に検討している。また、定期的に火災訓練(年2回)や普通救命講習(年1回)を行っている		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回の普通救命講習を行っている。	○	今後は年に1回普通救命講習と応急処置の講習も開催予定。また、希望者には上級救命講習を受講してもらう。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に火災訓練や普通救命講習を行っている。また、近隣の同グループと地域との連携も図っている。また、申し送りの際、防火装置や消火器、避難経路の確認をしている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人の状態は最低月に1回手紙や電話にて報告をしている。リスクについても説明し、対応策の検討をしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	本人の訴えやバイタルチェックを毎日朝夕行ったり、チェックシートや本人の顔色や日常生活上で異変を早期に発見し、その都度、すぐにかかりつけ医に相談し指示をもらうようにしている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の診断内容や薬の処方について、処方箋を元に連絡帳や生活日誌に記帳し、確認している。服薬は口に入れ、飲み込むまでの確認を必ず行っている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消のために、おやつにヨーグルトを出したり、食物繊維の多いものを調理したり、ラジオ体操など運動をする等工夫し、薬に頼らない排便に心がけている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ケア介助が必要な方に対しては時間の都合や拒否等により毎食後とは出来ていないが、夕食後は必ず実施している。	○	出来る限り毎食後、取り組んでいきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	午前、午後水分補給の時間を確保している。それ以外にも、入浴後は必ず補給したり、居室に用意する等気軽に飲めるようにしている。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は受けている。感染症対策マニュアルを準備したり回覧している。ノロウイルスの流行時には、魚介類、野菜の生物は避け、食材には全部、火を通すようにしている。	○	現在、感染症対策委員会を設置して、マニュアルに基づいた学習会を実施している。
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の熱湯消毒をしたり、食中毒の時期にはできる限り生物は使用しない、仕入れも新鮮で安全なものを使用している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	坂があるため、入りにくいを手すりを付けた。玄関のプランターには季節折々の花を植え入り口内には入居者作の生け花を飾って和やかさをだしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出時の写真を貼ったり、季節の花を飾り居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファで一人ひとりが自由に過ごされるようにしている。また、廊下にもソファを置いたりして思い思いに過ごせる様に配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や生活用品を持ってきて頂いている。思い出深い写真や好きなものを自由に飾られている。		
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の際、窓の開閉、フロアと居室内の温度差を少なくするように温度調整に配慮している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部所に手すりは設置している。身体機能の変化に応じ歩行器や車椅子等を設置使用し活動性を維持している。		トイレ、洗面所等を今後改修予定。より使いやすい設備に変更予定。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の扉に一人ひとり好きな目印をつけたり、トイレや浴室などの札をつけている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	危険が伴い活動できない。スタッフ同伴で日光浴程度。	○	裏の畑等上手く活用できるものがないか検討していく。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果				
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)				
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者を家族と思い、日常的に接している。誤嚥を防ぐために食事の前に嚥下体操を行っている。参加したくない利用者には冷茶などを飲んで頂き、アイスマッサージを行っている。また、出来るだけいろいろな行事を行うことで、いきいきと生活できるようにしている。